

第1回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和8年6月23日（火曜日）13時30分から15時40分

開催場所：本庁舎3階 302会議室B

参加者：三田市民生委員児童委員協議会 会長・副会長・主任児童委員（18名）

【部活動の地域移行関連】

- ・部活動の地域移行により、「中学校に入ってスポーツをやろう！」という気持ちを実現出来なくなってしまった。送迎ができない家庭もあり、バス送迎があっても移動にかかる時間がもったいない。学校から家にいったん帰って、現地に行くと練習時間が全然ない。こども目線で考えてほしい。放課後の居場所がなく、19～20 時くらいにマンションの下でうろついている中学生も実際にいる。
- ・部活動の地域移行は、金銭面で家庭の負担が発生している。神戸市では1人あたり月1,500円の補助が出ているとのことだが、三田市はどう考えているのか。
- ・中学生のこどもが大阪で下宿しているが、大阪市には、所得制限なしで月額上限1万円の習い事補助（小学5年生～中学3年生）がある。スポーツや文化的な習い事も含め幅広く補助している。部活動がこのような状況の中、こどもが夢を追いかけられる、希望を持てるよう、三田市でも補助があれば良いと思う。
- ・部活動がなくなったからか、商業施設が中学生のたまり場になっている。

市長：部活動の地域移行については今年度から本格的な運用が始まるが、地域格差も含め様々な課題が出てきている。いったん課題が出そろった時点で、検討することを想定している。支援策の検討を含め、こどもたちに寄り添った形で対応してやっていきたい。

【学校再編統合関連】

- ・武庫小学校の1年生は44人で2クラス、狭間小学校も1クラスの学年が多く、こどもの数が減っている。小学校を2つ統合してもクラス数もそんなに増えない。これらを考慮しながらフラワー地区の再編統合を進めるべきだと思う。
- ・再編統合にあたり、小中一貫校についてどう考えているのか。
- ・学校のこどもの人数が減り、1学年に1クラスとなるとクラス替えがなく、デメリットが大きい。統廃合することで、クラス数も増えるし、先生の配置も増える。こどもの教育面でも良いことが多いので、こういったメリットを打ち出して、再編統合を進めていくべきだと思う。
- ・少子化でこどもが減っている中、小学校をもっと集約してスクールバスで送迎してはどうだろうか。農村部と都市部で交流することも面白いと思う。交換留学的に送迎して1か月間別の学校に行くのも良いのではと思う。

市長：市内全体の小中学校の再編統合について、早急に考えていく。今後は、教育委員会と一緒に学びの機会の喪失がないように推進していきたい。統合後の学校の中身を考えながら進めており、いただいたアイデアなども含め再編統合は将来を見据えてやっていく。

【学校関連】

- ・配慮が必要な子が増えているが、先生の配置が少ない。

- ・スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーが各中学校区に1人配置で、相談したい時に予約できない。ふるさと納税による三田市への寄付を使って市の負担で配置できないだろうか。

市長：返礼品ありのふるさと納税は、半分が使えることになる。予算の優先順位を整理しながら、少しずつ進めていきたい。

- ・給食の無償化が始まっているが、私の周りの数人から「給食がおいしくない」という話を聞く。また、給食が時間内に食べられなくて居残りで食べている子もいるとのことで、給食に良いイメージが持てないのではないかと思う。美味しいものは美味しいが、少しくらい保護者が負担しても良いので、質を見直してほしい。

市長：給食の量・質の問題は、無償化の検討の中でも議論されており、質の担保にも力を入れてきたつもりだ。こどもたちへの給食のアンケート結果では、評判が悪い訳ではない印象だが、質の維持、見直しについて担当課に伝えておく。

- ・卒業記念品の準備をPTAでしているが、PTAへの加入を任意にしたため、加入者数が半減した。今は加入者からも会費を徴収していない。PTAの繰越金でコサージュなどを用意しているが、数年後に繰越金が尽きたらコサージュさえもない卒業式になる。PTAにも補助金を出すなど記念品を市で負担するようにしてほしい。各学校で卒業記念品に違いがないように、記憶のバラツキがないようにしてほしい。

市長：義務教育課程における記憶のバラツキ是正は一定必要なこととは考えるが、任意のPTA活動と市の関わり方として、どのような形が良いのかというところの課題だと思うので、いただいた意見は担当課に伝えておく。

- ・放課後こども教室を小学校で開催している。放課後児童クラブと違い、こども教室は無料なので、今は仕事をしている保護者が多いため見守り場所代わりで来ている子もいると思う。部活動の地域移行で、平日・休日の送迎などが問題になっている。こどもの居場所作りが大切だと思うが、中学生自身が考える事が大切なのではないだろうか。生徒みんなで話しあって決めようという機運醸成・話しあえる場づくりが必要で、中学生が発信することで、場ができやすいと思う。例えば地域を活性化するための防災や福祉のイベントを中学生が自ら企画・運営するなど、そういった中学生の活動を地域でもサポートできたら良いと思う。そういった中学生の活動について、授業の中に組み込むなどの仕組みづくりについて、教育委員会から学校へ伝えてほしい。

市長：昨年ゆりのき台中学校で「中学生未来トーク」を実施して、60を超える市への提言をもらった。学校の協力を得て授業の3回を使って三田市のことを研究してくれた。生徒会などでの生徒自身の自律的な活動はとても大切だと思うので、教育委員会に伝える。

- ・学校に聞いても、個人情報などを理由にこどもの情報を教えてくれない。委員がこどもに関わるチャンスが減っている。教育委員会から学校へ、学校と民生委員が定期的に交流できる機会を持つようにと発信してほしい。

- ・コロナ前は入学式に民生委員が参加していたが、コロナをきっかけに出席が制限され、今も元に戻らず、入学式に呼んでももらえない。コロナ前に戻してほしい。

市長：校長判断が多い部分があると思うが、地域交流・地域共有できる場は重要だと考えている。

- ・最近、東京の小学校で火事があったが、避難器具の練習をしていなかったのもので、教員が使いなかつたとのこと。いざという時に同じようなことにならないように、対策が必要だと思う。
- ・12月にまちづくり協議会で防災訓練をする予定だ。今回は東京の小学校の火事を受けて、実際に小学校を使って、白煙を使い防火扉を閉じて、閉じても小さな扉があるからここから逃げられるよ、というように実際に見てもらいながら、こどもに学んでもらいたい。防災訓練に学校を使用することに協力してほしい。
- ・学校に保管しているものは、学校の持ち物だけでなく、学校を利用している団体の物もある。安全のためにも、学校にある備品の点検・管理の徹底をお願いしたい。

市長：教育委員会に伝えておく。

【地域関連】

- ・つつじが丘は内科医院がなくなってから、地域に医療機関がしばらくなかったが、今回病院が開院予定とのこと、ありがたく思っている。店舗も1つあるが、買いたいものが揃わないなど不便なこともあるので、店舗の誘致もお願いしたい。

市長：今進めているところなので、暫くお待ちいただきたい。

- ・私が住んでいる地区は戸建ての5%が空き家になっており、空き家に空き巣が入ることが多くある。空き家になっても親族が管理していることも多いが、空き家の利活用についてもっと取り組みが必要だと思う。
- ・私が住んでいる地区も空き家に空き巣が入った。こどもが帰ってくる予定のためそのままおいてある家など、様々な事情で売りたいくても売れない家もある。ある家は4人家族だったが、こども2人が出て行き、父が亡くなり母は認知症で施設に入っており空き家になっている。この家の名義が母であるため、子が売りたいくても売れない問題がある。売却物件が出ると、すぐに売れる。駅も近いし、新しい統合中学校に魅力があるのも1つの要因らしい。

市長：潜在空き家の問題は認識している。固定資産税の通知に、家の評価や管理などの意識づけを促すちらしを同封している。認知症であれば、成年後見人を立てるなどの手段はあると思う。現行制度では1度成年後見人を設定すると、原則やめることができないといったハードルがあるが、今後は、目的・期間を定めるなど利用しやすいように民法が改正される予定とのことである。潜在空き家を利活用していきたい思いはあるので、そのためにリノベーション支援なども考えていきたい。

- ・40代の氷河期世代が婚期を逃して家族と一緒に住んでいるが、これらの層に三田市が婚活支援、マッチング・橋渡しをしてくれないだろうか。

市長：三田市でも「メタバース婚活」や一緒にピザを作るイベントなど、婚活支援に力を入れている。市が入ることで、婚活支援に安心感がでると思う。

【その他】

- ・三田市には児童館が1つしかない。働く保護者も多いので、児童館を増やして安心して過ごせるこどもの居場所がほしい。

市長：児童館をより良くしてほしいという声も聞いている。中学校の部活の地域移行関連も含め、現場の声・当事者の声を聞きながら放課後の居場所づくりに取り組んでいく必要があると考えている。

- ・体育館の利用料が 1.5 倍に値上がりした。4 回利用していたのを 3 回に控えている高齢者もいる。

市長：公共施設利用料が高くなった、というお声は想定していたが、応分の負担をいただきたい、ということでご理解いただきたい。こどもや高齢者の利用など利用料について検討する要素もあると思う。

- ・令和 12 年度完成予定の統合病院について、こどもたちの医療がどのように継続されるのか心配だ。周産期医療やNICU、小児医療について統合病院はどうなるのか、教えてほしい。

市長：周産期医療センターもできる予定で、素晴らしい小児医療が受けられることは間違いないと考えている。

- ・東洋経済新報社の「子育てしやすい自治体ランキング」において大阪圏で 1 位になったという事実もあるし、6 つの無料化や給食費の無料化などいち早くされたことを評価しているし、非常にいいことだと考えている。

市長：総合的な点数がいいことがランキングの上位に繋がっており、これは市民にとっても嬉しいニュースだと思っている。まちのブランドイメージが上がることで、企業からの協力が得やすいといった効果もあるように思う。

- ・小中高生の自殺が全国で年間 530 人以上、過去最大とのことだ。民生委員として高齢者にも関わっているが、高齢者は支援が必要な人が見えやすいが、こどもは見えにくいと感じている。学校が校外にこどもの情報を出さず、学校によって対応が異なる。こどもが不登校になって孤立してしまうことが問題だ。世界では 16 歳未満の SNS を禁止する国もある。最近は AI に相談するこどもも多いが、自殺を勧める AI もあると聞く。三田市が率先して SNS 規制などを呼びかけていくべきでは。

市長：SNS 規制には一長一短があるので、議論は必要だと考えている。自殺対策として市では、動画作成、クリアファイルの作成と中学生への配布を行った。今後も具体的な動きを進めていきたい。

- ・50 年前くらいに開発された団地に、再び子育て世代が入って来ている状況もあり、嬉しく思っている。子育て世帯に移住して来てもらえると嬉しく思う。しかし、子育て世代を取り込むための市の移住施策を、親世代を含め市民があまり知らない。

市長：移住については、令和 7 年度から補助金制度を設け、去年は 141 組移住してきてくれた。テクノパークで働く人のうち、半分が市外から通っており、その層にもアプローチしている。今年度から同窓会支援も新しく始めた。三田市に帰ってきて愛着を持ってもらうきっかけになればと思う。今後、ランキング上位に入ったことの効果も出てくるのではと考えている。

- ・親子も、三世代も支援をしてほしい。重層的支援が大事だと思う。高齢者だけでなく全世代が相談できる体制が理想的である。世代で分断しないような施策をしてほしい。

市長：重層的支援は、三田市社会福祉協議会とも連携しながら推進していきたい。

- ・朝ご飯を食べていない子が多い。こども食堂も含め、朝食支援を市としてできないだろうか。

市長：様々な声を聞くなかで、昨年度からこども食堂への補助を始めている。協定を結んでいる企業が多くあるので、企業に協力してもらいながら、地域課題の解決に向けたプラットフォームを作りたいと考えている。そのような仕組み作りを始め、できるだけ支援をしていきたい。

- ・公園にハチの巣があり、ロープを張って人が近づかないようにされている。この公園は、幼稚園や保育園の園児、また自治会活動でも使うことが多いので、みんなが安心して利用できるようハチの巣の駆除をお願いできないだろうか。また、公園の中には老朽化した木が多く、嵐の後は倒れている木もある。小学校の中にある木も虫食いがある木があり、こどもたちの安全を守る上でも、点検して管理をしてほしい。

市長：早急に担当課に伝える。街路樹等は、パトロールを実施している。倒木などのリスクがあるものを優先し、美観も念頭に置きながら対応している。特に、大きな木は点検していきたい。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。